メインタイトル（神戸大石川ゼミテンプレートV202301）

―サブタイトル―

姓姓　名名（X大学）　（※院生の場合は，Y大学院生）

aiueo@aiueo.com

Main Title in English

―Sub-title in English―

FAMIL,　First (X University) (Y University, Graduate Student)

概要

5～10行程度。「こういうことをやります」とだけ書くのではなく，概要だけを読んでも内容がある程度わかるよう，(a)研究目的・(b)使用したデータと手法・(c)研究結果を明確かつ簡潔に書いてください。日本語論文であっても，概要部分を英語で書くことが可能です。その場合，冒頭の「概要」はAbstract（左寄せ）としてください。ご質問は石川慎一郎（神戸大）iskwshin@gmail.comまで。

キーワード

あああ，いいい，ううう（3～5語程度）

# 1. はじめに

ここから・・・　下記の構成は一例であって義務ではありません。セクションタイトル内の数字とピリは半角。セクションタイトルにはワードの「スタイル」の「見出し1」が設定済みです（12p）。

全体の書式の注意：

0)句読点は従前どおり「，。」方式を基本としますが，2022/1/7の文化審議会建議をふまえ，執筆者の判断により，「、。」を使うことも可とします。各自で判断いただき，論文の中では統一くださるようお願いします。なお，本文に「、。」を選んだ場合でも，文中での引用記載の際には，英語文献の引用書式と揃えるため，（石川、2022）ではなく（石川，2022）の書式を推奨します。

1）テンプレートにはWordのスタイル（階層情報）がすでに埋め込まれているので，このまま加筆ください。フォントは日本語がMSP明朝＋英語がCentury。本文のフォントサイズは10.5p。

2）Word上部の表示→☑ナビゲーションウィンドウとすると，階層を確認しながら執筆できます。

図1

階層構造の表示例



注：Wordで，上部のリボンより表示を選び，ナビゲーションウィンドウをクリックすると，上記が表示されます。画像を論文に転載する際，視認性が低い場合は，画像部分をダブルクリックし，「修正」を選び，シャープネス・明るさなどを調整すると，図版内の文字を見やすくできる場合があります。その他，図版に関わる書式については，図2の注も参照。

3）数字はすべて半角。漢数字かアラビア数字か迷えばすべてアラビア数字でお願いします。

4）日本語論文では全角「，」（、ではない！）と全角「。」を使用します。

5）英語で書く場合も，本テンプレートに準拠ください。概要はSummary，キーワードはKeywords，参考文献はBibliographyとなります。

6）注はできるだけ避けてください。どうしても必要な場合は論文末尾に固めて記載ください。Wordの脚注機能の使用はできません。

7）電子出版の場合のみグラフや図版中でのカラーも使用可。

8）カッコ類は日本語文中では全角，英語文中では半角を基本とします。

# 2. 先行研究

ここから・・・　適宜，2.1などのサブセクションを加えていただいても結構です。

# 3. リサーチデザインと手法

## 3.1 研究目的とRQ

サブセクションのタイトルには「見出し2」のスタイルが設定済みです（他と同じ10.5p）。ただし，本文はいつも「標準」スタイルで書きます。

## 3.2 データ

・・・

## 3.3 手法

### 3.3.1 データの事前処理

サブセクション内の下位区分（第3階層）には「見出し3」のスタイルが設定済みです（他と同じ10.5p）。ただし，本文はいつも「標準」スタイルで書きます。・・・・・

### 3.3.2 分析の手順

・・・・

図2

石川研究室のアイコン



注：これは石川研究室のアイコンです・・・　APAは6版までは図のキャプションは図の下に書くルールでしたが，APA7以降，表・図とも，キャプションはそれぞれの上に書く（1行目には図表番号，2行目にそのタイトルを原則名詞句で記載）こととなりました。グラフなどの場合，読み方や略号の注記は図の直下に「注：」として記載します。

　・・・・

表1

3人の生徒の3教科のテスト得点（平均）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 国語 | 数学 | 英語 |
| s1 | 45.3 | 42 | 66 |
| s2 | 67 | 31.2 | 44 |
| s3 | 87.9 | 22 | 33.8 |

注：APAに準じる場合，表には横線のみで，縦線は引きません。APA6までは，表については文字は左寄せ，数字は右寄せ原則でしたが，APA7では数値はセンタリングするようになっているようです（APA7, p.211等参照）。これによりたとえば桁が違うと右端がずれることが起こりえます。原則は，表内も本文と同一フォント・書式ですが，大きな表を入れる場合など，必要に応じて改行幅を圧縮したり，視認性が確保される範囲でフォント数を下げていただいたりしても結構です。また，上記書式は標準例ですが，絶対ではありません。判断により，縦横線を入れた表にしていただいても結構です。

# 4. 結果と考察

## 4.1 RQ1 ＊＊＊＊

ここから結果・・・

## 4.2 RQ2 ＊＊＊

　ここから・・・

## 4.3 RQ3 ＊＊＊

　ここから・・・

# 5. まとめ

　目的，RQ，結果をまとめ，必要な場合は教育的示唆や，制約と課題に言及ください。

# 謝辞

　本研究は科学研究費…（該当ない場合はこのセクションなしでも問題ありません）

# 引用文献

実際に言及した文献に限ります。基本はAPAに従いますが，各分野の標準的な記法に従っていただいて結構です。下記はAPAに基づく一例です。日英混在時はアルファベット順で混ぜます。※APA7より，出版社の所在地の表示が不要になりました。

Creiman, L. (2001). Random forests: An introduction to statistical processing. *Machine Learning*, *45*(1), 5-32.　巻はイタリック，号はカッコ内。書名・論文名の大文字は冒頭のみ。雑誌名は単語ごとに語頭を大文字に。

Ishikawa, S. (2011). A new horizon in learner corpus studies: The aim of the ICNALE project. In G. Weir, S. Ishikawa & K. Poonpon (Eds.), *Corpora and language technologies in teaching, learning and research* (pp.3-11). University of Strathclyde Publishing.　筆者名は「姓，名イニシャル」だが，編著者名は「名イニシャル＋姓」の順序になる。論文の収録された本の書名も大文字は冒頭のみ。

石川慎一郎(2013) 「ICNALEを用いた中間言語対照分析研究入門：日本人学習者の『特徴語』を再考する」 『英語教育』(大修館書店) *61*(13), 64-66. 日本語論文等を記載する場合も，英語同様，(　)は半角。定期刊行物は誌名だけで特定できないと思われる場合，( )で刊行所(学会・大学・出版社)を併記してよい。ただし，『＊＊大学紀要』や『＊＊学会論集』などの場合はそれだけで刊行書がわかるので添え書き不要。論文名は「　」で書く。「　」の中にさらに「　」を入れる場合は，ダブルの『　』になる（※上記の『特徴語』など）。

Morgan, J. N., & Sonquist, J. A. (1963). Problems in the analysis of survey data, and a proposal, *Journal of the American Statistical Association*, *58*, 415–434. 雑誌名のときだけ，単語ごとに頭を大文字に。

岡田祥平(2007) 「とりあえず『日本語話し言葉コーパス』検索の可能性を検討する：『雰囲気』という単語の発音を例に」 『龍谷大学国際センター研究年報』 *16*, 59-80.　「 」の中でもう1回「 」を入れる時は『 』。

豊田秀樹(2008) (編著) 『データマイニング入門：Rで学ぶ最新データ解析』 東京図書.　いわゆるサブタイトルの境界記号としてスペースやダッシュなどが混在している場合はコロンで統一してもよい。

林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀眞(2010) 「丁寧度判定で測定したポライトネス・ストラテジーの要因に関する決定木分析」 『日本文化学報』 (韓国日本文化学会) *47*, 101-115.